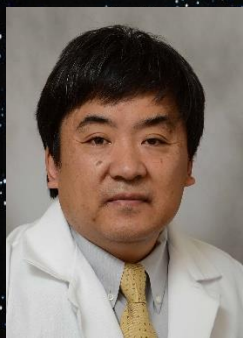


# 難治性固形がんに対する オンコリティック・アデノウイルス (*Oncolytic adenovirus*) — その開発と今後の展望 —



## 山本正人先生

Masato Yamamoto, MD, PhD

Co-Director, Professor

Division of Basic and Translational Research

Department of Surgery

University of Minnesota

USA

### ご略歴

- 1988年 大阪大学 医学部 卒業
- 1997年 大阪大学 大学院医学系研究科 修了
- 2005年 アラバマ大学 バーミングハム校 准教授
- 2006年 ミネソタ大学 准教授
- 2015年 同大学 バイオセーフティ委員長（現職）
- 2018年 同大学 基礎・トランスレーショナル研究部長（現職）
- 2019年 同大学外科学 外科研究担当統括副部長 教授（現職）

担当 金沢医科大学 一般・消化器外科学 高村博之教授

共催 北信がんプロ

問い合わせ先 金沢医科大学教学課（大学院医学研究科担当）

d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

近年の遺伝子治療及び遺伝子改変細胞治療の進展はめざましく、遺伝子改変を用いた治療法が全世界で次々と臨床試験に入ってきています。進行した固形腫瘍はその防御的は特性のため現状の治療法が効きにくく、これらの新しい治療法の難治性固形腫瘍への応用は大いに期待されているところです。我々はウイルスの持つ細胞溶解性に着目し、アデノウイルスに由来する腫瘍溶解性ウイルスを開発してきました。我々の開発したhigh-diversity adenovirus libraryとそのhigh-throughput screeningを用いて開発されたInfectivity-Selective Oncolytic Adenovirus (ISOAd)は細胞表面の分子に特異的に結合し、感染・増殖を起こし、全身投与での選択的治療を可能にする新世代のウイルスです。我々の研究室では、このほかにも、プロモーターを用いた腫瘍特異的増殖の実現や、OAdを用いた腫瘍局所でのtransgeneの大量且つ特異的な発現、腫瘍の核医学的検出と治療を実現するウイルス等、様々なアプローチで固形癌の新しい治療法の開発に挑んでいます。今回は、このISOAdを中心にオンコリティック・アデノウイルスの様々な可能性についてお話ししたいと思います。

